

第1A(中)分科会 教育課程に関する課題

提案主題 地域連携及び専門スタッフ活用による学びに向かう学校づくりにおける教頭の関わり
協議の柱 教頭として、地域連携及び専門スタッフを活用したカリキュラム・マネジメントを
どう推進すればよいか。

提言者 国東市立国東中学校 溝部 剛

1 質 疑

- (1) Q 生徒数は何人で、不登校生徒数は何人か。以前から不登校生徒は、いたのか。
A 現在の生徒数は、215人。統合当時は、360人ほど。これまで多い時は20人ほど不登校がいた。一昨年度は9人、昨年度10人、今年度は3人という状況。
- (2) Q 総合学習の世界農業遺産の取組について、もう少し説明してほしい。
A ため池やクヌギ林等の循環型農業が世界農業遺産として指定を受けた。市内の中学生が循環型農業を調べて、まとめ、発表するという学習。
- (3) Q スクラップアンドビルド・質の向上について、具体的に説明してほしい。
A 新しいことに取り組むのには、最初時間がかかるが、何年か継続して取り組むことで積み上げができれば教員の負担を減らすことができる。行事自体のスクラップも必要。
- (4) Q 地域行事・ボランティア活動は、どんな方法で行っているか。
A 生徒会の中で地区生徒会があり、そこで夏休みのボランティア活動の内容を話し合う。先生たちも1回は参加している。特徴的に3世代での活動もしている。
- (5) Q ゲストティーチャーについて、公民館はどんな取組をしているか。
A 協育コーディネーターや弥生のムラの指導員にお願いすれば紹介してくれる。

2 協 議

- (1) 地域連携については、総合学習で地域に関わりがある。CSについては、地域が密接なところは地域の協力体制ができています。CSの認知度を上げることがこれからの課題。
- (2) 中1ギャップをなくすために、5年から各小学校が集まって交流するスタートカリキュラムを実施。GTの世代交代で新たな人が見つからずに苦勞している地域が多い。
- (3) 総合学習は地域連携担当に役割を担わせ、教頭はみかじめの役割を。小中9年間を通したカリキュラムを作成していく必要がある。CSをうまく活用させながら実施していく。

3 指導助言

- (1) 学校と地域をつなぐために努力していることがわかる提言だった。GTと学年長の橋渡し、行事調整等マネジメントしている。(組織マネジメント・スケジュールマネジメント・タイムマネジメント・カリキュラム・マネジメント) 専門スタッフをどのように組織の中に位置づけるか。(組織マネジメント) コーディネートの役割分担を決めることによってカリキュラム・マネジメントしていく。
- (2) 地域との連携は、協働の4点セットの考え方が参考になる。学校課題の明確化が大事。課題の中で地域に取り組んでもらいたいことを4点セットとして作成する。家庭のことはPTA、地域のことはCSで提案・協議する。協育ネットワークとの関連でそれぞれ学校の課題と連動させることが大事。
- (3) 保護者との連携は、PTAとの取り組みに力を入れる。学校の教育課題をPTAの年間目標に位置づけ、PTAも同じベクトルで取り組むことが大事。